～　学校便り～

なつめ　12月号

〈編集・発行〉
鹿児島市立喜入小学校
〈発行日〉
令和２年１２月２１日

いいと思える過ごし方の答えを創り出す冬休みを

全校集会ゲームⅦ「校長先生とじゃんけん」

校長　内村　英人

２学期は，運動会，全校児童集会，１・２年生のきいれまつり，３年生の総合「じまんのまち　喜入」，４年生の半成人式，５年生の宿泊学習，６年生の修学旅行など協力し合って取り組む活動が多くありました。もちろん，日々の授業や係活動，委員会活動もそうです。

これらの協働的な活動においては，個性と社会性・多様性とをどう両立させるかという課題をそれぞれの発達段階なりに経験することになります。この経験において大切なことは，どこかにある正解に至るまでの過程を経験することというよりは，協働によって自分たちなりによりよい答えを創り出す営みを経験させることであると考えます。

例えば，全校児童集会において，集会委員会の子どもたちは，全員が楽しくふれ合える活動にするために，１０種類のゲームを考えて準備しました。縦割りの各班は，１年生から６年生までが一緒に楽しめるように，班をまとめたり順番を考えたりして，時間内にすべてのゲームを行えるように６年生がリードする必要がありました。ここには，正解があるわけではありません。自分たちで，答えを出さなくてはなりません。

教科の授業においても，これに近い経験をさせるために研究を進めています。４年生理科の「とじこめた空気と水」の授業においては，空気でっぽうの球が飛び出す理由を探るために，子どもたちは，空気でっぽうの中の空気にどのようなことが起きているのか調べるための実験方法を考えました。自分なりの仮説に基づいて検証方法を考えることで，より科学的で妥当だと思える方法を生み出そうとする手続きを経験させたいという意図で行った授業です。答えらしきものにたどり着いたと思ったけれども，そうではないことに気付いて，もっといい答えがその先にあるのではないかと学習が続いていくという経験は**「みんなちがって，みんなで考えざるを得ないから，みんないい」**という多様性のよさを感得していくことになると考えます。

専門家でさえ答えを持たない予測不可能と言われるこれからの社会に生きる子どもたちにとって，問題点を見付け，多様な見方・考え方を知り，答えを創り出す力を獲得していくことは，とても大切なことであると言われています。

この冬休みには，学校でのさまざまな学びを生かして，年末年始をどのように過ごすのかを考えたり，どのように過ごせているかと見直したりして，いいと思える過ごし方についての答えを自分で創り出してほしいと考えます。そして，その生活を通して，新しい年の夢や挑戦したい目標が生まれてくるような１４日間を過ごすことを期待しています。

では，よいお年をお迎えください。

抵抗力を高めましょう（十分な睡眠　適度な運動　バランスのとれた食事）

【本年度の一事徹底事項】「元気なあいさつ」

２学期の教育活動についてのアンケート調査に御協力くださり，ありがとうございました。御意見の中には，「あいさつができない」というものが多くありました。本年度の重点取組事項ですが，成果がでていないことを深く反省し，指導の強化を図らなければなりません。